

FOCUS

追いかける。大学生。

京都造形芸術大 紙管仮設スタジオ

被災地支援プロジェクト

東日本大震災を受け、昨年10月頃から京都造形芸術大の学生約10名が、紙でできたパイプでのスタジオ建設に取り組んでいる。完成後は仮設住宅建設の支援に役立てられる予定だ。



このプロジェクトは同大の坂茂教授の提案のもと始まった。環境デザイン学科の4年生を中心に活動している。紙管と呼ばれる紙でできたパイプでスタジオを建設し、そこを研究拠点とし、被災地での仮設住宅建設の支援につなげる予定だ。

紙管は被災地でも比較的手に入りやすく、阪神淡路大震災でも臨時住宅建設に利用された。しかし雨などには弱いため、現在の作業でも、天候に左右されながら様々な試行

錯誤を加え建設中だという。

後々、被災地支援につながる活動でもあり、参加している学生はさまざま考えを持っている。実際被災地に行ったことがあるという学生もいた。女川に行った佛木直道さん(京都造芸大・4年)は被災地で家具制作などのボランティアをし、そこでの経験もあって、このプロジェクトに参加したという。また「震災は絶対に忘れてはならない」と語るのは松平葵さん(京都造芸大・4年)。彼女

仮設住宅支援の拠点に

も実際ボランティアで被災地に行ったことが、参加のきっかけのひとつとなっている。

授業の一環として行われるこのプロジェクトは、実際の施工作業ができる貴重な場でもあり、一からすべて学生が手がけている。またその作業は朝早くから夜遅くまで、ほぼ毎日行われ、決して楽な活動ではない。そのため精神的にも変化し、責任感が強くなったという学生も多い。リーダーである柳川周也さん(京都造芸大・4年)は「とても良い機会なのでたくさん学ばせてもらいたいです」と意気込む。

このスタジオは同大の瓜生山キャンパス内芝生広場に2月下旬、完成予定。中心として建設活動をしている4年生がこの3月で卒業するため、その後は3年生に引き継ぎ、仮設住宅研究拠点として、活動を続ける予定だ。さらに実際に自分たちの手で被災地に仮設住宅を建設することも考えているという。

(聞き手 松本百花)

UNN関西学生報道連盟

FOCUSは

神戸大学ニュースネット委員会
同志社大学 PRESS 編集部
NEWS 立命通信社
関学新月通信社
大阪大学 POST 編集部

関西大学タイムス編集部
神戸女学院大学 K.C.Press 編集部
京都女子大学藤花通信編集部
京都大学 EXPRESS 編集部

の共同編集による週刊フリーペーパーです

配信・発行 (C) UNN 関西学生報道連盟 (公式HP) <http://www.unn-news.com/>

共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島 4-2-24 ダイニホンビル 4F

(TEL) 06-6307-1315 (FAX) 06-6829-6353 (MAIL) info@unn-news.com